
バカとテストと恋物語？

つりしん3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと恋物語？

【Nコード】

N 6 2 9 3 Z

【作者名】

つりしん3

【あらすじ】

ある日、転校してきた二人の男と女、男の名は工藤修也。本来ならAクラス入り確実だったがめんどくさいと言ってテストを受けなかったため、Fクラスになった。

こいつらが織り成す恋の行方やいかに！？

ムツツリーニ×愛子、雄ニ×翔子、明久×姫路、美波×オリキヤラでいくつもり

オリキャラ設定

工藤 修也くどう しゅうや

容姿

顔はまあまあイケメン。髪は茶色がかった黒で、目は黒

性格

普段はテンション低め、アホっぽい

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

168cm

体重

50kg前後

得意教科

古典以外

苦手教科

古典

召喚獣

執事服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は日本刀

備考

父が外人で母が日本人のハーフ、そのため髪が微妙な色、本人いわくコンプレックス。文月学園に転校してきた。その理由は単に面白そうだからという単純な理由。Fクラスになったのは、面倒だとい

ってテストをほっぽりだしたため。成績はAクラス並。姫路のことが好き。本作品の主人公。

桐谷 汐きりたに しおり

容姿

一言で言うと美少女。髪と目は茶色、

性格

普段からテンション高め、アホ毛がある、

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

150?

体重

40kg

得意教科

理数系

苦手教科

それ以外

召喚獣

メイド服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は大型のピストル

備考

明久とは、いとこの関係である。修也とは幼馴染。髪がきれいな茶髪なため、中途半端な髪の修也をいじめている。文月学園に転校してきた。その理由はいじる対象がいなくなりたくなかったため、修也を追い転校してきた。Fクラスになったのは面白そうだからとい

う理由で名前を書かなかったため。成績はAクラス並。

第1問 転校生（前書き）

さっそくはじまりました。第1話、こんな小説を読んでいたくださ
りがとうございます。

第1問 転校生

西村先生「えー、突然だがここでこのクラスに新しい仲間が増える。」

鉄じ・・・じゃなかった西村先生が衝撃的なことを言った。

FFF団「こんな微妙なときにか？」

「女だといいな」

明久「どんなひとなんですか？」

西村先生「九州から来たらしい」

九州かゝゝたしかあいつがいたのも九州だったはず・・・

FFF団「男ですか？女ですか？」

西村先生「両方だ」

FFF団「両方？おかまか？」

明久「ねえ、雄二。両方っておかまのこと？」

雄二「んなわけねえだろ。男一人と女一人以上ってことだ」

明久「さすが雄二、元神童なだけはあるね」

雄二「それくらい理解しろよ・・・」

雄二とそんな話をしていると転校生が入ってきた。

えっ、あれって・・・

汐「こんにちは」九州から来ました。桐谷汐です。」

FFF団「美少女」

汐「ってあれ？アキくん？」

汐が僕の方を向く。ついでにFFF団のみんなも僕の方を向く。

雄二「明久、お前の知り合いか？」

明久「雄二、知り合いも何も僕と汐はいとこだもん。」

ヒュン

今僕の顔の横をカッターが通り過ぎたような……

FFF団「ちっ……はずしたか……」

雄二「いどこ？お前と桐谷がか？全く似てねえな……」

美波「そうよ、アキ。桐谷さんは美少女だけどアキはねえ……」

ひどいよ、美波……

汐「アキ君、久しぶり……」

汐が僕に抱きついてきた。

ヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュン
すると、たくさんの刃物が飛んできた。

明久「畳替えし……」

はぁ、危ない。

西村先生「あーお前らもう一人いるんだが……」

あ、忘れてた……

西村先生「では、工藤、自己紹介してくれ」

修也「えー汐と同じ学校からやってきました。工藤修也です。前の

学校では汐と付き合ってた。」「

付き合ってただってそれは・・・

死刑宣告だ・・・

どうせ僕も追われるんだ・・・

工藤くんに教えてあげなきゃ・・・

明久「工藤君・・・」

修也「ん？」

明久「今、付き合ってたっていったよね・・・」

修也「ああ」

明久「それは・・・」

修也「それは？」

明久「死を受け入れてるようなもんだ!!」

修也「えっ!？」

FFF団「Let's party!!!」

僕たちのほうに刃物が飛んてくる。

まずい、これは逃げなきゃ・・・

明久「逃げるよ。工藤君。」

修也「あ?うん、分かった。」

秀吉「また始まったのう」

雄二「ああ、そうだな」

そんな秀吉たちの声を聞いたところで僕たちは屋上に逃げた。
あぶないよ・・・

明久side out

修也side in

明久「大丈夫？工藤君？」

修也「ああ大丈夫だ。さつきはありがとな。」

明久「さつき？」

修也「死の宣告を教えてください」

明久「あああれねいつものことだから・・・」

いつものことなのか・・・

そんなこんなでこの日は終わった・・・

第1問 転校生（後書き）

どうでしたか？第一話、はじめてなのでダメだしなどがあつたら入ってください。

次はみんなの自己紹介です。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（前書き）

修也「おれはこんな学校にきてよかったのか・・・？」

P・S・面倒なのでセリフの前の人名はこうします。

明久↓明 雄二↓雄 美波↓美 姫路↓姫 秀吉↓秀 ムツリ

二↓ム

修也↓修 汐↓汐 美春↓清 久保↓久 愛子↓愛 優子↓優

翔子↓翔 鉄人↓鉄 葉月↓葉

などそんな感じです。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争

次の日の朝おれが学校に行くと馬鹿がいた。もとい、Fクラスの面々がいた。

明「修也、今僕たちのことバカにしたよね？」

こいつは人の心が読めるのか？

修「ああ、そうだが。」

雄「当たり前だろ、おれ達は最低のFクラスだぞ。バカなのは当然だ。」

こいつはクラス代表らしい。

明「ところで、修也はみんなに自己紹介してないよね。」

修「ああたしかにそうだな。」

明「おい、みんな、修也が挨拶したいって。」

ま、おれはそんなこといってないけど……

明「みんな、まずは自己紹介して。」

雄「おれは坂本雄二よろしくな。呼び方は代表でも雄二でもなんでもいい。」

秀「わしは木下秀吉じゃ。言うておくがわしはれっきとした男じゃ。」

男？こいつが？どう見ても女だろ？

瑞「私は姫路瑞希です。趣味は料理です」

それを聞いた瞬間、男たちが顔を引きつらせた。気がした……
ま、気のせいかな……

美「ウチは島田美波、ドイツからの帰国子女よ。趣味は……」

可愛い女の子だと思った。が、次の瞬間おれからその感情は消えう
せた。

美「吉井明久を殴ることです」

修「それはどういうこと？」

美「みせてあげるか？」

すると、島田は指をボキボキ鳴らし始めた。

明「や、やめてよ。美波。」

修「もういいです。」

美「そう？楽しみだったのに……」

これ以上は明久がかわいそうなので止めておいた……
てか、楽しみにすんなよ……

明「次はムツツリー二だね。」

修「ムツツリー二って？外国人？」

明「ムツツリー二っていうのは愛称で本名は……」

ム「……土屋康太……」

ま、みんなムツツリー二っていつてるしムツツリー二でいいや。

えーと、坂本と木下と島田さんと姫路さんとムツツリー二か……
あ、あと明久……忘れてた……
すると、雄二が変なことを言い出した。

雄「今、おれたちはAクラスに試召戦争を仕掛けてるんだ。」

修「試召戦争？なんだそれ？」

明「あ、そうか修也は知らないんだもんね。」

雄「試召戦争は召喚獣で戦う戦争だ。」

修「召喚獣？」

もうなんのことだか分からん……

雄「試召戦争ってのは他のクラスと召喚獣で戦って勝ったらこのボ
口設備と他のクラスの設備と交換することだ。で召喚獣ってのがそ
の戦いに使う自分の化身みたいなものだ。」

へえー

明「で召喚獣の強さは点数で決まる。」

修「へえー点数でってFクラスって一番不利じゃん！」

なのにこいつらは戦争を仕掛けたって言うのかよ……

修「勝算はあるのか？坂本……」

雄「おれのことば雄二でいい。あああるともこっちは姫路がいる
からな……」

姫路？姫路がどうしたんだろう？

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（後書き）

ここまでになります。長いと読者の皆さんも疲れると思うので・・・

第3問 試召戦争勃発!!! (前書き)

第2問の続きです。

修「姫路がどうかしたのか？」

第3問 試召戦争勃発！！！！

雄「姫路はAクラス並の成績だからな。」

修「へえゝってなんでこんなところにAクラス並の奴がいるんだよ。」

Aクラス並だつて？

明「姫路さんは途中退席で0点なんだ。」

雄「で、決戦は今日の午後だ。」

修「へえゝって後30分しかないよ！？」

こいつらそれなのにこんなに余裕でいいのか？

雄「試合形式は5対5で3ゲーム先にとったほうの勝ちだ。」

秀「わしらは勝てるか心配じゃの。」

瑞「大丈夫ですよ、私たちなら勝てますよ。」

- - - - - 数時間後 - - - - -

高「それではこれからAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を行います。1人目は前に・・・。」

秀「では、わしが行こうかの。」

優「じゃあ私が行くわ・・・。」

彼女は明久曰く秀吉のお姉さんらしい・・・

優「ちよつと秀吉来なさい。」

秀吉が連れてかれた・・・

数分後、秀吉は戦えないほどボロボロになっていた・・・
なので、代わりに明久が出ることになった。

ああ、負けたな・・・この試合・・・

優「だれでもいいわ。教科は現国で・・・」

高「承認します。」

優・明『試獣召喚^{サモン}』

Aクラス 木下優子 現国 367点

vs

Fクラス 吉井明久 現国 ??点

明久の点って何点だろ・・・

Fクラス 吉井明久 現国 76点

勝負は一瞬でついた・・・

高「勝者 Aクラス 木下優子」

明「ごめん、勝てなかった・・・」

雄「大丈夫だ、お前に期待は最初からしてない。」

ま、そりゃそうだろ・・・

明「ひどいよ、雄二!!」

こうして1回戦はAクラスの勝利で終わった・・・

第3問 試召戦争勃発!!! (後書き)

汐「私の出番あるかしら・・・」

第4問 2回戦（前書き）

Aクラスとの戦い、2回戦です。

ム「おれがいく・・・」

第4問 2回戦

修也 side

バカもとい明久が負けたせいで1回戦がAクラスの勝利で終わり、2回戦が始まった・・・

明「ねえ雄2回戦は誰が出るの？」

雄「ここではムツツリーニに出てもらう。」

なんでムツツリーニを出すんだろう？

高「両者、前に。」

すると、ムツツリーニが出た。

愛「それならボクがいこうかな。」

かなりの美少女だった。

高「では、始めてください。」

愛・ム『試獣召喚^{サモン}』

愛「ムツツリーニ君だっけ？ボクの名は工藤愛子。特技はパンチラで得意科目は保健体育だよ。しかも君とは違って実技でね。」

ブシャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

この音ってなんだろう？

みてみるとムツツリーニが血に染まっていた・・・

ああ興奮して出したのか・・・

男としてはロマンだよな・・・

いいな。ムツツリーニは素直で・・・

明「工藤さんって可愛いし・・・って腕がちぎれるように痛い!!」

あつちは島田に処刑されるし・・・

気の毒にな。。

あ、戦ってたんだ・・・

Aクラス 工藤愛子 保健体育 476点

vs

Fクラス 土屋康太 保健体育 ???点

400点オーバー?高すぎだろ・・・

ムツツリーニ勝てるか?この試合・・・

ムツツリーニの点は・・・

Fクラス 土屋康太 保健体育 526点

500点オーバー?やっぱりエロの帝王は違うな・・・

ム「・・・・・・・・加速。」

高「勝者、Fクラス 土屋康太。」

愛「あーあ、負けちゃったね。。」

ム「・・・・・・・・おまえはおれのライバル・・・・・・・・おれに勝つまで誰にも負けるな・・・・・・・・」

愛「・・・・・・・・うんっ」

ムツツリーニが恋愛マンガのような恥ずかしいセリフを言って勝った・・・

これで1対1だ・・・

2回戦はFクラスの勝利で終わった・・・

第4問 2回戦（後書き）

次は3回戦です。

汐「わたしの出番・・・」

第5問 3回戦（前書き）

3回戦です。

雄「これで1対1か・・・」

第5問 3回戦

明久side

ムツツリー二の活躍で1対1で3回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

久「じゃあ僕が行こう。」

出てきたのは学年主席の久保君だった。

雄「じゃあ修也いけ・・・」

明「なんで転校してきたばかりの修也を出すの？」

雄「まあ見てろって。」

雄二のことだ、なにか作戦があるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

久「総合で・・・」

久・修『試獣^{サモン}召喚』

Aクラス 久保利光 総合 3902点

Fクラス 工藤修也 総合 ???点

もうちょっとで4000点ってバカげた点だな・・・
修也の点は・・・

Fクラス 工藤修也 総合 4500点

450点？少ないな〜ってあれ？0が二つ？4500点？

A『なんであんなのがFクラスにいるんだ？』

明「雄二なに？あの点数？」

雄「あれが修也の実力だ・・・」

瑞「すごいですね・・・私でも4200点なのに・・・」

いいや、4200点でも十分すごいって・・・

久「でも、操作に慣れてない君には負けないよっ！」

修「へえ〜こーやって動かすのか・・・おらっ」

あっ

Aクラス 久保利光 0点

高「勝者、Fクラス 工藤修也。」

F『やったーーーーー！』

明「すごいよ、修也。」

修「ありがとな明久・・・」

まさか、勝てるなんてこれでAクラスにリーチだ・・・

秀「すごいぞ修也よ・・・」

瑞「すごいですー！」

美「すごいわね。」

これで2対1リーチだ！！！！

第5問 3回戦（後書き）

次は4回戦です。

汐「私の出番？」

作「はい、そうです。」

汐「やったーーーー」

第6問 4回戦（前書き）

4回戦です。

汐「ついに私の出番ね〜」

第6問 4回戦

修也 side

おれ様の素晴らしい活躍により、2対1のリーチになり、4回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

佐「私が行きます。」

出てきたのは頭のいい人だった・・・
って明久が言っていた。

でもAクラスなんだから頭がいいのは当たり前だろ・・・

雄「じゃあ汐いつてこい。」

汐「へ？私？瑞希ちゃんは？」

雄「姫路は今回出さない・・・」

F『えーーーーー』

明「なんで？雄二？」

雄「さつき汐に殺されかけて・・・」

明「あとは言わなくていい・・・」

ああ、汐のことだ・・・

雄二を脅したに違いない・・・
いとこの明久だから分かるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

汐「数学で・・・」

佐・汐「試獣召喚^{サモン}」

Aクラス 佐藤美穂 数学 365点

VS

Fクラス 桐谷 汐 数学 350点

350点か・・・まあ汐ならそれくらい楽勝だよな・・・
でも明久たちは驚いてるな・・・ま、無理もないか・・・
汐結構、頭いいしな～

雄「ちつ・・・Aクラスには及ばなかったか・・・」

数分後

高「勝者Aクラス 佐藤美穂。」

まあ初心者だから勝てないのも無理はないか・・・
↑初心者なのに
勝った人

これで2対2で同点か・・・

次は雄二・・・

勝てるか？雄二？

第6問 4回戦（後書き）

次はAクラス戦の最後です。

修「勝てるか？雄二？」

第7問 最終決戦（前書き）

最後です

雄「ついにおれ達の机がシステムデスクに・・・」

第7問 最終決戦

明久 side

ムツツリーニや修也の活躍で僕たちはAクラスと2対2で同点になった。ここで勝てばFクラスの机はシステムデスクになる・・・

高「両者、前に。」

Fクラスからは雄二がAクラスからは代表の霧島さんが出てきた。霧島さんって確か女の子が好きなんだよね・・・

高「教科は何にしますか？」

雄「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は百点満点の上限ありだ！」

A「上限ありだって？」

『しかも小学生レベル。満点確実じゃないか』

『注意力と集中力の勝負になるぞ・・・』

小学生レベルっていくら雄二でもこれは満点確実でしょ・・・

明「なんでそんなに細かいの？」

雄「あいつは一度覚えたことは忘れない・・・逆にそれを利用するんだ・・・」

一度覚えたことを忘れないなら不利じゃないのかな？

雄「ある問題が出たらおれ達は勝ったも同然だ。」

秀「ある問題ってなんじゃ？」

雄「その問題は、大化の改新だ。」

美「大化の改新？」

雄「そうだ、おれは昔、大化の改新を625年と教えたんだ。」
明「え？大化の改新って625年じゃないの？」

雄「バカか、お前は無事故の改新で645年だろ・・・」
高「ではテストを行います。」

雄「二人は別室でテストを受けることになり出て行った。」
みんなが固唾を吞んでディスプレイに写る問題を見ていた。

《次の（ ）に正しい年号を記入しなさい。》

（ ）年、平城京に遷都

（ ）年、平安京に遷都

小学生レベルの問題いくら雄二でも説けるよね〜
あれ、どっちが794年だっけ？

（ ）年、鎌倉幕府設立

（ ）年、大化の改新

出た・・・

瑞「よ、吉井君っ・・・」

明「うんっ」

瑞「これで私たちの机が・・・」

F「システムデスクに！！！！うおおおおおおおお」

《日本史勝負 限定テスト 100点満点》

《Aクラス 霧島翔子 97点》

V S

《Fクラス 坂本雄二

53点》

Fクラスの卓袱台がみかん箱になった・・・

第7問 最終決戦（後書き）

次は自分で考えたテーマのなにか（未定）です。

明「ゆう――――うう――――じい――――」

第8問 合宿に行こう！（前書き）

合宿（？）に行く話

汐「合宿行くわよ！」

明「合宿？」

汐「そう、合宿！」

第8問 合宿に行こう！

修也 side

バカ野郎もとい雄二のせいでFクラスのみかん箱になった教室での出来事・・・

汐「ねえねえみんな、みんなで合宿しない？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『合宿？』

汐「そう、合宿。私と修也のこと、みんなはよく知らないでしょ？だから合宿をするのよ！！」

明「僕はいいよ。」

雄「おれもいいぞ。」

瑞「私もいいです。」

美「ウチもいいわよ。」

島田も普通に可愛いものになっ

ム「・・・俺も行く。」

秀「わしもいこうかのう。」

修「みんなが行くなら俺も行くぜ。」

ということ合宿することになった。でも合宿どこでするんだ？

明「どこでやるの？」

汐「うーん、アキ君の家あたりでいいんじゃない？」

明「家？別にいいけど・・・」

雄「なら決定だ。姫路も明久の家行ってみたいよな？」

瑞「ふえっ！？あ、はい・・・」

明「で、いついくの？」

汐「うん、今日かな？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『今日なの（なのか）（ですか）（なの）
（かの）？』

汐「そう今日よ！」

今日っていきなりすぎだろ・・・

明「それってあれ？思い立ったが切実だっけ？」

明久よ、それは吉日だ・・・といおうと思ったとき

秀「明久よ・・・それを言うなら吉日じゃ・・・」

先にツッコまれた・・・このおれが・・・

汐「まあそんなところよ・・・」

明「みんな、いい？」

雄・瑞・美・ム・秀・修『いい（ぞ）（ですよ）（わ）（・・・）
（のじゃ）』

明「じゃあ帰ったら午後4時に校門で集合ね。」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修・汐『わか（った）（りました）（っ
たわ）（ったのじゃ）』

放課後

明久SIDE

明「みんないる？」

雄「いるぞ。」

明「雄二なんで霧島さんと工藤さんがいるの？」

雄「翔子はおれが誘った。工藤はムツツリー二がいるからだそうだし．．．」

明「なんで霧島さん誘ったの？ついに霧島さんのことが？」

雄「断じて違う。明久よ、この合宿に翔子を誘わなかったらどうなると思う？」

明「ごめん。」

雄「分かればいい．．．」

こうして僕たちは僕の家に向かった．．．

第8問 合宿に行こう！（後書き）

合宿（？）でした。

汐「アキ君の家久しぶりだな〜」

第9問 合宿？（前書き）

明「僕のうちに合宿・・・」

第9問 合宿？

明久 side

しばらく歩くと僕のうちに着いた。

雄「ここが明久の家か・・・」

翔「・・・・・・・・・・ここが雄二との愛の家。」

一体霧島さんは家で何をするつもりなんだろう・・・

明「ただいま」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀「おじゃまします。」

明「どうぞ、ごゆっくりと・・・でみんなは何日泊まるの？」

汐「私は3泊4日。」

汐がそういうとみんなもそうすると言ってきた。

愛「でなにをするの？」

確かに工藤さんの言うとおりだ・・・

何をするかなんてろくに決まってい・・・

雄「そうだな・・・まず食料調達でもするか・・・どうせ、明久のうちの冷蔵庫には何も無いんだろ・・・」

明「失礼な！」

瑞「じゃあ何が入ってるんですか？」

明「えーつと・・・醤油・・・」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀「・・・」

僕の言葉にみんながシーンとした・・・

なんで？

雄「やっぱりな・・・じゃあ買出しは誰が行く？」

愛「はいはいボクがいくよ。ムツリーニ君もいこつ。」

ムツリーニが工藤さんに誘われてる・・・よし合宿が終わったら
コ・ロ・ソ・ウ。

雄「じゃあ後は島田と修也に行ってもらおう。」

修・美「えっ！？」

なんでだろう？

雄「でおれ達は・・・何かしとく・・・」

何って何だろう？

ということ僕たちは家に残ることになった。

愛「じゃあ行ってくるよ」

そういうと4人は出て行った。

明「で、なにをするの？雄二？」

雄「何がしたい翔子？」

翔「・・・雄二との結婚。」

汐「私はアキ君との熱いキス」

霧島さんと汐の衝撃的な発言に僕と雄二は悶絶した・・・

明「そういうことじゃなくて・・・」

雄「今何がしたいかだよ・・・」

翔「・・・・・・・・私は今雄二と結婚したい。」

汐「私も今アキ君とキスがしたい。」

この人たちは・・・

雄二はそれを見捨て、話を進めた。

雄「どうせ、暇だ。なんかして遊んでよう。」

暇ってあの4人に買出しに行かせたのに？

ということでは遊ぶことにした・・・

第9問 合宿？（後書き）

えーと遊びの内容がまだ決まっていなかったのでこれからへんで・・・

第10問 合宿？（前書き）

合宿？です。

修「二人を仲良く・・・（ニヤニヤ）」

第10問 合宿？

修也 side

雄二たちに行つて来いといわれて仕方なく買出しに出かけた・・・
ムツツリー二と工藤はたぶん両想いだな・・・
よし、二人にチャンスをやろう。

修「いきたい店が二つあるから二手に分かれよう・・・」

愛「えっ？別にいいけど・・・チームわけは？」

修「チームわけはおれと島田、ムツツリー二と工藤だ。」

それにしてもおれも工藤なのに工藤って分かりづらいな・・・
そんなことより二人きりにしてやるんだ・・・

愛「ボクはいいけど・・・ムツツリー二君は？」

ム「……………別にかまわない。」

ということとで二手に分かれることにした・・・

修「で、どこに行く？島田？」

美「え？決めてなかったの？」

修「まあな・・・」

あれは二人きりにさせるための作戦だしな・・・

美「じゃあ、魚屋さんでもいく？」

修「そうだな。」

んで、おれと島田は魚屋に行くことにした。

魚屋にはいろんな魚が売っており大変混んでいた。

修「じゃあおれなんか買ってくるわ・・・何がいい？」
美「じゃあマグロかな？」

おれはマグロを求めて人ごみを掻き分けていった。

修「おっさん、これくれ！」
おっさん「はいよ。」

おれはマグロをゲットして島田の所に向かった。

修「島田、ゲットしたぞ・・・」

次の瞬間・・・

第10問 合宿？（後書き）

どうなるのか？

第11問 合宿？（前書き）

次の瞬間・・・

汐「何が起こったのかしら？」
作「この後を見てください。」

第11問 合宿？

修也 side

次の瞬間・・・

おれは人ごみに押されて島田のほうに倒れ込んだ。

修「わっ！」

美「キャッ！」

結果として俺は島田を押し倒した・・・
すると、俺と島田の唇が重なった。

まあ簡潔に言くと俺と島田はキスをした・・・

修「・・・んっ／＼／」

美「・・・っ／＼／」

やばっ・・・おれのファーストキス・・・

美「な、なにすんのよ！」

修「それはこっちの台詞だ！」

美「・・・」

修「・・・」

しばらく恥ずかしさのあまり沈黙してしまっておれ達・・・

修「・・・マグロも手に入れたし帰るか・・・」

美「・・・うん。」

沈黙が続きおれ達は一言も喋らずに明久の家に帰っていった・・・

第11問 合宿？（後書き）

次は工藤 side でお送りします。

修「島田・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293z/>

バカとテストと恋物語？

2011年12月27日06時47分発行